

いたみ じゅうぞう
伊丹 十三 (1933~1997)



映画監督。俳優。エッセイスト。商業デザイナー。テレビマン。CM作家。京都市出身。本名は池内義弘。父親は松山市出身の映画監督・伊丹万作。父の死を機に松山市に転居。高校卒業後上京し、新東宝編集部を経て商業デザイナーとなり、26歳で大映に入社、俳優になる。存在感のある俳優として活躍し、外国映画「北京の55日」「ロード・ジム」にも出演。昭和58(1983)年公開の「家族ゲーム」「細雪」でキネマ旬報助演男優賞を受賞。1970年代には「遠くへ行きたい」などのドキュメンタリー番組を制作するほか、テレビCMの名作にも数多く携わる。また、精神分析をテーマにした雑誌『モノクル』を創刊、編集長を務めた。

51歳の時に「お葬式」で映画監督としてデビュー、高い評価を受け、日本アカデミー賞最優秀作品賞、キネマ旬報ベストワンなど数多くの賞を受賞。以降「タンポポ」「マルサの女」「あげまん」「スーパーの女」など10作品を監督。

俳優時代から名エッセイストとしても知られ、代表作に「ヨーロッパ退屈日記」「女たちよ!」「問いつめられたパパとママの本」「日本世間断大系」など。翻訳やイラストも手がける一方、家事や子育てに関心が深く、料理の腕も一級だった。

略歴

昭和8(1933)年5月15日	伊丹万作の長男として京都市に生まれる。
昭和25(1950)年	松山市へ転居し、県立松山東高等学校へ転入。2年後、松山南高等学校へ転入
昭和29(1954)年	松山南高等学校を卒業、上京し、新東宝編集部を経て商業デザイナーになる。
昭和35(1960)年	大映入社。「伊丹一三」の芸名で出演し俳優デビュー。
昭和36(1961)年	「北京の55日」(ニコラス・レイ監督)出演のため渡欧
昭和38(1963)年	『洋酒天国』56号にエッセイ「ヨーロッパ退屈日記」を発表 「ロード・ジム」(ピーター・ブルックス監督)出演のためロンドンでカメラテストを受けたのちカンボジア滞在
昭和44(1969)年	女優・宮本信子と結婚
昭和45(1970)年	テレビ「遠くへ行きたい」初出演。以降、ドキュメンタリー番組に多数携わる。
昭和54(1979)年	一六タルトCM(愛媛県限定)初放送。ほか、代表的なテレビCMに味の素マヨネーズ、ツムラ日本の名湯、西友などがある。
昭和58(1983)年	出演映画「細雪」(市川崑監督)、「家族ゲーム」(森田芳光監督)公開(キネマ旬報助演男優賞受賞)
昭和59(1984)年	前年の義父の死去と葬儀の経験をもとにシナリオを執筆、初めての脚本監督作品「お葬式」として公開(日本アカデミー賞最優秀作品賞、キネマ旬報ベストワンなど受賞)
昭和62(1987)年	国税査察官を主人公とした脚本監督作品「マルサの女」公開(日本アカデミー賞最優秀作品賞、シカゴ国際映画祭最優秀主演女優賞など受賞)
平成9(1997)年12月20日	64歳で永眠

(写真提供：伊丹十三記念館)

〈関連図書〉

- ・「考える人」編集部『伊丹十三の本』新潮社 2005年
- ・伊丹十三記念館『伊丹十三記念館ガイドブック』伊丹プロダクション 2007年

〈主な収蔵資料〉…(P233, 172)

〈ゆかりのある場所〉…(P317, 216)

〈関連施設〉…伊丹十三記念館

〒790-0932 愛媛県松山市東石井1丁目6番10号 TEL: 089-969-1313